

機械器具 01 手術台及び治療台
一般医療機器 汎用電動式手術台 JMDNコード: 36867020

特定保守管理医療機器

電動式手術台 arcus 601

**【警告】

<使用方法>

- 患者を乗せた後、体位を取るために本品の各部位を屈曲させる、又は付属品にて支持する場合は、必ず患者の状態を監視しながら行うこと。[落下、怪我等の事故防止のため]
- 患者を長時間にわたって同一の体位に保つことは、神経麻痺等の原因となる場合があることに留意すること。

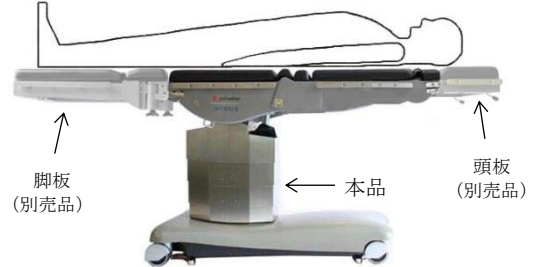
**【禁忌・禁止】

<使用方法>

- 手術台の設置及び移動の際には下記の事項を守ること。
 - 位置を高くするために手術台の下に当て物をいれないこと。[破損、横転防止のため]
 - 凹凸のある床面に設置しないこと。[破損、横転防止のため]
 - 移動/輸送中を含め、手術台を5度以上傾いた場所には設置しないこと。[破損、横転防止のため]
 - 患者を乗せた状態でフロアロックを解除しないこと。[破損、横転防止のため]
 - 手術台は平らな場所でのみ使用すること。[破損、横転防止のため]
 - 手術台がフロアロックされた状態でのみ、患者を別のベッドに移動させること。[破損、横転防止のため]
- 手術台の取扱い
 - 【形状・構造及び原理等】の項目4.に示す耐荷重を超えた使用をしないこと。[作動不良、破損防止のため]
 - 頭板、脚板等のアクセサリ(別売品)を接続した後、アクセサリ部分だけに乘ったり座ったりしないこと。[破損防止、横転防止のため]
 - 手術台の操作中は、各部位の隙間に手や指を入れないこと。[怪我防止のため]
 - 手術台の操作中は、テーブル面の下に潜り込まないこと。[医療従事者や患者に傷害を与える危険性があるため]
 - 想定される動作に合わせて、患者を手術台に固定すること。[医療従事者や患者に傷害を与える危険性があるため]
 - 手術台を動かす際は、患者を常に監視しながら動かすこと。[医療従事者や患者に傷害を与える危険性があるため]
 - 患者が乗っている状態で水平復帰ボタンを押さないこと。[落下、怪我等の防止のため]
- コード類の取扱い
 - コード類の上に重量物を乗せたり、他の機器のキャスター等で乗り越えたりしないこと。[断線による火災又は感電防止のため]

②ポジションB

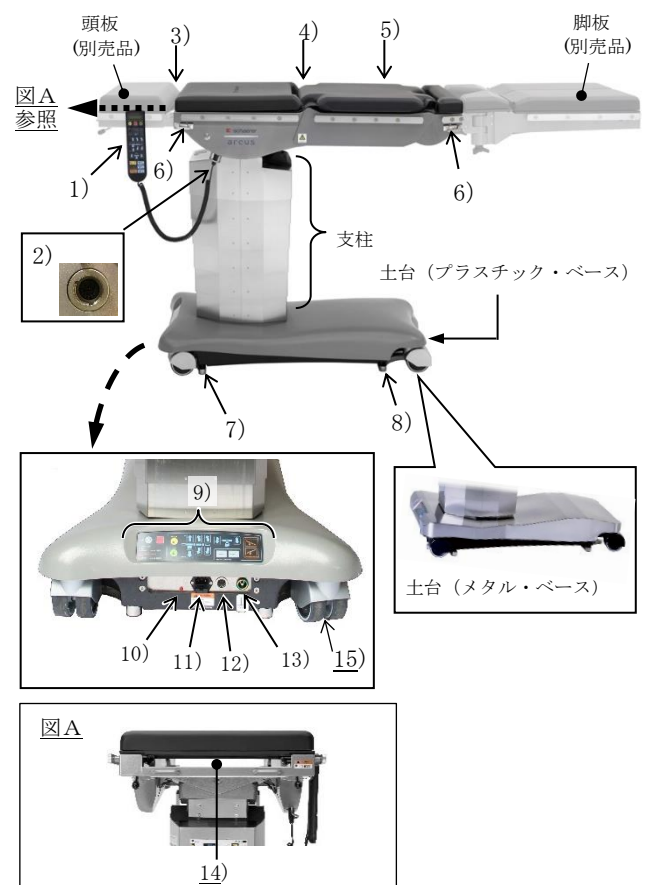
※ 患者の足が本体の支柱側になるポジション。



2. 形状

①本体

プラスチック・ベース
プラスチック・ベース J
メタル・ベース
メタル・ベース J

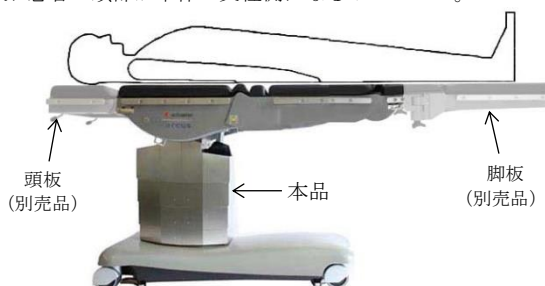


**【形状・構造及び原理等】

1. 構成

①ポジションA

※ 患者の頭部が本体の支柱側になるポジション。



番号	名称
1)	ハンドコントロール
2)	ハンドコントロール コネクター (両サイド)
3)	背板 (パッド付 / ポジションB時は腰板)
4)	腰板 (パッド付 / ポジションB時は背板)
5)	補助板 (パッド付)
6)	アクセサリ固定レバー
7)	フロアロック・シリンダー
8)	フロアロック・シリンダー (段差調節機能付)
9)	緊急操作パネル

取扱説明書を必ずご参照下さい

番号	名称
10)	パイロットランプ
11)	A C電源コード接続部
12)	フットコントロール コネクター
13)	H Fアースコード接続部
14)	X線カセットフレームホルダー
15)	キャスター

②本体付属品

- a. ハンドコントロール b. HFアースコード (3000mm)



※ハンドコントロールと
カールコードは分離しない。

③選択付属品

- a. フットコントロール b. HFアースコード (5000mm)



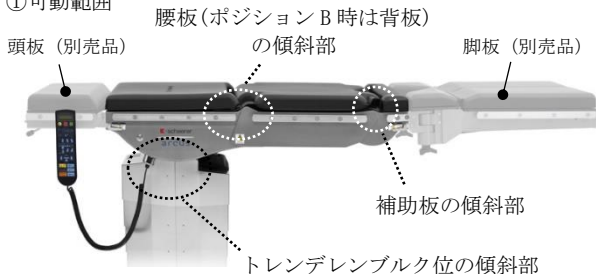
※フットコントロールと
カールコードは分離しない。

3. 作動原理

本体内部の二次電池から電気を供給し、ハンドコントロールを操作してポンプモーターを作動させ、目的部のシリンダーにオイルを送ることにより発生する油圧を用いて、本体の高さ、各部位の角度を調整する。

4. 機能

①可動範囲



テーブルの昇降範囲	最高：1200mm 最低：595mm
トレンドレンブルグ位の傾斜角度	±30°
左右傾斜角度	±20°
腰板（ポジションB時は背板）の傾斜角度（水平面より）	上方65° 下方40°
補助板の傾斜角度（水平より）	上方80° 下方100°

②耐荷重 ※但し、使用条件による

ポジションA時（患者の頭が支柱側）	360kg
ポジションB時（患者の足が支柱側）	360kg

5. 寸法等

①プラスチック・ベース

テーブル面：1130 (2110*) mm×520mm

※頭板、脚板(共に別売品)を接続した場合

サイドレール：プラスチック・ベース…10×25mm、

プラスチック・ベースJ…9×32mm

パッド厚：50mm

ベース(土台)部：1120mm×630mm

②メタル・ベース

テーブル面：1130 (2110*) mm×520mm

※頭板、脚板(共に別売品)を接続した場合

サイドレール：メタル・ベース…10×25mm、

メタル・ベースJ…9×32mm

パッド厚：50mm

ベース(土台)部：1100mm×620mm

6. 重量

本体：310kg

7. 原材料

主たる原材料：ステンレス鋼、ABS樹脂、ウレタン・フォーム、強化プラスチック、アルミニウム合金

8. 電気的定格等

機器の分類	電撃に対する保護の形式	クラス I 機器
	電撃に対する保護の程度	B 型装着部
電気的定格	内蔵バッテリー電圧	DC24V (12V×2 個) ハンドコントロール 12Ah/ 緊急操作パネル 7Ah
	内蔵バッテリー形式	鉛蓄電池 ハンドコントロール NP12-12/ 緊急操作パネル NP7-12
	充電時電源電圧	AC100-120V
	充電時電源入力	200VA
	電源周波数	50 / 60 Hz
EMC 規格	EMC 規格 IEC60601 - 1 - 2 : 2014 に適合	

**【使用目的又は効果】

本品は、手術が必要な部位の大部分に適応するように改良された完全移動型手術台(汎用)であり、電池電源式である。

手術時に患者の身体を支持、固定するために使用する。

尚、本品は術者の利便性のため、必要な医療機器を予め組み合わせたものを構成品に含む。

構成医療機器の使用目的又は効果は、該当する製造販売届書に記載のとおりである。

**【使用方法等】

機器の詳細な使用方法は、取扱説明書を参照のこと。

<フロアロック>

本手術台はフロアロックされていないとキャスターが動き、患者が転落する可能性がある。従って、転落により患者が障害を負う危険性を避けるため、以下の点を遵守すること。【禁忌・禁止】手術台の設置及び移動 参照)

・各検査の前に手術台をフロアロックすること。

・各手術前に手術台をフロアロックすること。

尚、フロアロック操作中は土台部分から足を離すこと。[可動部であるフロアロック・シリンダーが下がり、医療従事者が障害を負う危険性があるため]

<コントロールユニット>

本手術台は以下の三つのコントロールユニットによる操作が可能であり、複数が同時に使用された場合における制御の優先順位は以下の様に設定されている。

優先順位	コントロールユニット
1	緊急操作パネル
2	ハンドコントロール
3	フットコントロール

※1 手術台がハンドコントロールで制御できなくなった場合には、緊急操作パネルを介して手術台を動かさなければならない。

※2 手術台の動作の速さについては患者の体重により影響を受けるため留意すること。

1. ハンドコントロール

電源スイッチはなく、作動させたい部位のボタンを押すと起動する。

※1 複数のボタンを同時に押すと動かない。

※2 トレンデレンブルグ／逆トレンデレンブルグボタンは手術台が安全モードでもロック解除の状態でも操作可能。

ハンドコントロールの配置



- ①液晶ディスプレイ
- ②ロック／オンボタン※1 (手術台の固定)
- ③ロック解除ボタン(手術台の固定解除)
- ④ストップボタン(強制停止)
- ⑤低速ボタン(手術台の作動速度の切り替え)
※トレンデレンブルグ以外の作動に適用
- ⑥マスボタン※2(患者体重 260kg 以上の場合のモード)
- ⑦設定ボタン(患者ポジションの切り替え)
- ⑧テーブル上昇／下降
- ⑨腰板上昇 (ポジション A 時)
背板上昇 (ポジション B 時)
- ⑩補助板(アクセサリ取付部)上昇
- ⑪補助板(アクセサリ取付部)下降
- ⑫腰板下降 (ポジション A 時)
背板下降 (ポジション B 時)
- ⑬左右傾斜
- ⑭移動用補助ボタン(方向転換を補助)
- ⑮逆トレンデレンブルグ
- ⑯トレンデレンブルグ
- ⑰フレックス
- ⑱リフレックス
- ⑲レベル(水平復帰)

※1 安全モード

患者のポジショニング後及び手術中は、必ずハンドコントロールを安全モードに設定すること。[ハンドコントロールが遮断されていない場合、患者に傷害を与える危険性がある] 以下の操作により、手術台の意図しない作動を防ぐ。

安全モードの起動

手術台をフロアロックし、望ましいポジションに設定した後、ロックオン／ボタン(②)を2秒間長押しする。赤い LED の SAFE が点滅し、安全モードが起動する。ハンドコントロールは、トレンデレンブルグ、逆トレンデレンブルグを除いて無効となる。



安全モードの解除

ロックオン／ボタン(②)を2秒間長押しする。赤い LED の SAFE が消灯し、安全モードが解除される。ハンドコントロールの全ての作動が有効となる。

※2 マスボタン (マスモード)

患者の体重が 260kg 以上の場合、転倒防止のためテーブルの高さを 100cm 以上には上がらないよう制限する機能。

テーブル面の高さが 100cm 未満の場合、ハンドコントロールのマスボタン(⑥)を長押し(3 秒以上)することでマスモードが起動し、マスボタン部分の緑色の LED が点灯する。これで 100cm 以上には上がらなくなる。(100cm 以内は高さ調節可能)

テーブル面の高さが 100cm 以上の場合、マスモードを起動させるとディスプレイに“Column too high”と表示されるため、テーブルが自動的に停止するまで下降ボタン(⑧)を押し続ける。テーブルが 100cm に到達した段階で作動が停止し、マスボタン部分の緑色の LED が点灯する。これで 100cm 以上には上がらなくなる。(100cm 以内は高さ調節可能)

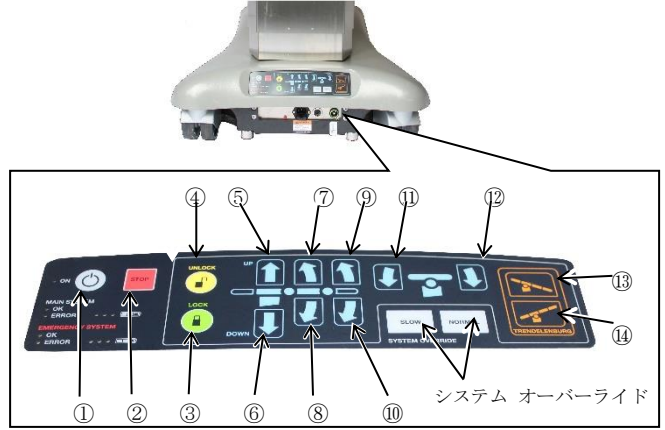


2. 緊急操作パネル

①ハンドコントロールが故障した場合は、手術台ベース部の緊急操作パネルで、手術台を作動させることが出来る。

②緊急操作パネルの“SYSTEM OVERRIDE” (SLOW/NORMAL) ボタンを押しながら、動かしたい部位のボタンを押すことにより、作動させることが出来る。
※SLOW を押しながら動かしたい部位のボタンを押すとゆっくりと、NORMAL を押しながら動かしたい部位のボタンを押すと通常の速さで動く。

緊急操作パネルの配置



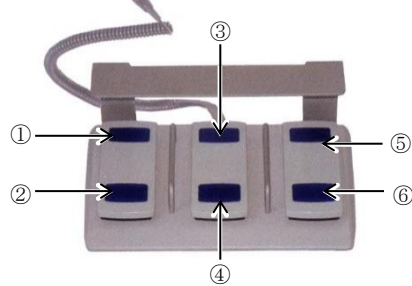
緊急操作パネルの配置		
番号	ポジション A 時	ポジション B 時
①	オンボタン (ストップボタン操作後の再起動)	オンボタン (ストップボタン操作後の再起動)
②	ストップボタン (強制停止)	ストップボタン (強制停止)
③	フロアロック固定	フロアロック固定
④	フロアロック解除	フロアロック解除
⑤	テーブル面上昇	テーブル面上昇
⑥	テーブル面下降	テーブル面下降
⑦	腰板の上昇	背板の上昇
⑧	腰板を下降	背板の下降
⑨	補助板の上昇	補助板の上昇
⑩	補助板の下降	補助板の下降
⑪	左側に傾斜させる	右側に傾斜させる
⑫	右側に傾斜させる	左側に傾斜させる
⑬	逆トレンデレンブルグ	トレンデレンブルグ
⑭	トレンデレンブルグ	逆トレンデレンブルグ

③緊急操作パネルの制御フィールド(右図参照)には、現在のシステム状態に関連する情報及びエラーが表示される。表示及び内容等の詳細については、取扱説明書を参照すること。



④緊急操作パネルを使用した場合、ポジション A、B の設定に関わらず、ポジション A の動作となる。このため、緊急操作パネルを操作する前に、必ずポジション A に基づいて適切な動きが実行されていることを確認すること。

3. フットコントロール



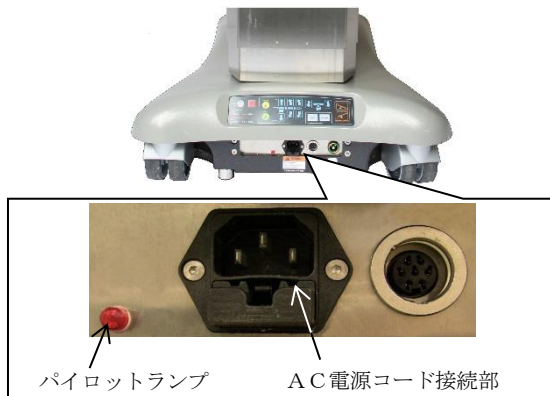
ポジション A 時	ポジション B 時
①トレンデレンブルグ	①逆トレンデレンブルグ
②逆トレンデレンブルグ	②トレンデレンブルグ
③テーブル面上昇	③テーブル面上昇
④テーブル面下降	④テーブル面下降
⑤右に傾斜	⑤左に傾斜
⑥左に傾斜	⑥右に傾斜

4. 内蔵バッテリーの充電

①市販のAC電源コードを本体のAC電源コード接続部と、コンセントに差し込む。(パイロットランプが点灯し、充電が始まる)

※1 AC電源コードのプラグを差し込む前に、正しい電源接続を確認すること。[異常のあるAC電源ケーブル又は不適切な主電源に接続すると感電の恐れがあるため]

※2 電源ネットワークからの切断が困難になるような方法で手術台を設置しないこと。



②充電状態の表示については、取扱説明書を参照すること。

<内蔵バッテリー使用上の注意>

①完全に放電された状態(充電容量がゼロの状態)にならないよう未使用時は常に充電を維持していること。[容量がゼロになった場合、正常に動作しなくなることがあるため]

②内蔵バッテリーの劣化が早まるため、充電状態のまま手術台を操作しないこと。

③内蔵バッテリーの容量がゼロになり作動しなくなった場合は、手術台を1分間充電した後、30秒動かす、という手順を繰り返すことで一時的に対応することも可能だが、最小限にとどめること。[内蔵バッテリーの劣化が著しく早まるため]

※1 上記の方法で動かない場合は修理を依頼すること。

※2 充電装置は、主電源での連続動作用に設計されており、主電源に接続された状態での手術台の操作は、上記のエラーシナリオのみを対象としている。

④バッテリー充電の際に接続可能な市販のAC電源コードの規格：電圧125V、電流15A、接続部3P。尚、全長3000mm未満の長さを推奨する。

<緊急時の強制終了>

手術台が予期せぬ動きをした場合等の危険な状況下では、次の手順に従い手術台の動きを止める必要がある。

Ⓐハンドコントロール(④)または緊急操作パネル(②)のストップボタンを押す。

Ⓑ各部への電力供給が停止、全ての動作が強制終了する。

<組み合わせで使用できる医療機器>

①本品は、弊社取り扱いの手術台アクセサリを併用する。

届出番号	販売名
13B1X00167000192	シーラー・手術台アクセサリ (arcus用)

②又、本品と併用可能である手術台アクセサリの代表例は以下のとおり。使用者の判断で患者や手技に応じ選択使用する。

届出番号	販売名
13B1X00167000145	シーラー・手術台アクセサリ
13B1X00167000167	シーラー・ベースアダプター
13B1X00167000180	シーラー・OTZ下肢牽引器
13B1X00167000247	ショルダーポジショニングプレート
13B1X00167000276	シーラー・ラジオルーセント下肢牽引器
13B1X00167000301	シーラーUS・手術台アクセサリ

**【使用上の注意】

<重要な基本的注意>

- アクセサリ(別売品)を接続する際は、アクセサリ固定レバーを確実に締めたいので、使用前に適切な固定を確認すること。[アクセサリが動く又は外れ、医療従事者や患者が負傷する可能性がある]
- テーブルトップ部品が適切にラッチされていることを確認すること。[部品が落下し、医療従事者や患者が負傷する可能性がある]
- テーブルトップ部品を取り付ける際には正確な処理手順を遵守すること。[部品が落下し、医療従事者や患者が負傷する可能性がある]
- アクセサリが突出していると、手術台が傾くなどして、患者やスタッフ作業者が負傷する危険性がある。
- 使用前に、手術台及びアクセサリに合わせて患者ポジションを設定のうえ、適切な患者ポジションが設定されていることを確認すること。[誤った患者のポジション設定下では手術台を適切に動かすことが出来ず、患者が負傷する可能性がある]
- 左右傾斜をさせる際は、頭部の向きとハンドコントロールのポジション(AまたはB)の設定とを必ず合致させたいので、慎重に行うこと。[意図した方向と逆に動くなどして思わぬ事故につながる場合がある]
- 手術台は、医療用コンセントに接続し充電すること。[電源の取り扱いを誤ると爆発の危険性があり、致命的な傷害を負う可能性がある]
- バッテリーの充電については、正確なプロセスステップを厳守すること。[電源の取り扱いを誤ると爆発の危険性があり、致命的な傷害を負う可能性がある]
- 手術室における主電源装置の故障の際は、手術台本体に内蔵されたバッテリーでのみを使用すること。[電源の取り扱いを誤ると爆発の危険性があり、致命的な傷害を負う可能性がある]
- 爆発の危険がある区域では、以下を遵守すること。[爆発の危険性が高くなり、患者および医療従事者が傷害を受けるおそれがある]
 - 手術台を操作しないこと。
 - バッテリーを充電しないこと。
 - 手術台を主電源に接続しないこと。
- 患者を乗せて手術台を移動する際は、手術室エリアに限定すること。[手術台の転倒により、患者が傷害を受ける危険性がある]
- 手術台の移動を行う場合は、体の部分や器具が以下の危険区域にないことを確認すること。
 - 関節部分：屈曲などの動作中に挟まれたり、押しつぶされたりするおそれがある。
 - 土台(ベース)：ロックオン(手術台の固定)時、ロック解除時に可動するフロアロック・シリンダー伸縮時は足などが下敷きになるおそれがある。
 - 可動部分：関節可動部を持つ脚板などは、先端が周辺機器や床面等に接触すると傷害が発生するおそれがある。
- 未使用時は常に充電を維持すること。又、使用中は充電状態の表示及びシステム状態を確認すること。[故障した、又は、機能しない手術台は使用中の患者に致命的な傷害を与える危険性がある]
- ハンドコントロールのケーブルに無理な力を加えないこと。[重大な傷害や物的損害を引き起こすおそれがある]
- 患者の体重が260kgを超える場合、患者をポジショニングする前に、マスモードを設定してテーブルトップの高さを100cm以内に制御すること。[手術台の転倒により、患者が致命的な傷害を受ける危険性がある]

16. アクセサリーを取り付けた状態でテーブルトップを移動する際は以下を遵守すること。[脚板と医療従事者、手術台と床が衝突する危険性及び怪我や物的損害、損傷を受ける恐れがある]
- ・アクセサリーを取り付けたテーブルトップは慎重に下ろすこと。
 - ・患者を絶えず監視しながら行うこと。
 - ・テーブルトップの下降時には、脚板の動きの範囲から離れること。

<相互作用>

[併用注意] (併用に注意すること)

医療機器の名称等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
高周波手術装置	これらの機器と併用する場合は、併用する機器の取扱説明書および電子添文等で放電対策の有無を確認すること。本手術台と放電対策のされていない機器との併用は、患者が重度の熱傷や傷害を負う危険性があるため、推奨しない。	患者が手術台の金属部品に接触したり、導電性または湿ったパッドの上にポジショニングされたりした場合、これらの器機との接触により、放電エネルギーが起こる危険性がある。
心臓細動除去器		

**【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法
直射日光、ほこり等を避け、内蔵バッテリーへ充電している状態を維持しつつ、常温・常湿にて保管する。
2. 設置環境
周囲温度範囲：10℃ - 40℃
相対湿度範囲：10% - 75%
気圧範囲：660hpa - 1060hpa
3. 耐用年数
内蔵バッテリーの耐用年数：3年*。[自己認証（製造元データ）による]
※使用環境により短くなる場合がある。

**【保守・点検に係る事項】

保守・点検については、本文書と併せて取扱説明書も参照のうえ、実施頻度/方法/手順の全てを遵守し、適切に行うこと。

<使用者による保守・点検>

1. 使用前に以下の点検を行い、手術台の機能的な安全と適切な状態を確認すること。
 - ①手術台の電源を入れる。
 - ②手術台がフロアロックされていることを確認する。又、すべての付属品が適切に装着されていることを確認する。
 - ③コントロールユニットを使用して動作確認を行う。
 - ④緊急操作パネルの制御フィールドを確認する。メインシステムおよびエマージェンシーシステムの LED には、「OK」という値が表示されていなければならない。
 - ⑤バッテリーの状態を確認する。メインシステムおよびエマージェンシーシステムは、フルチャージ状態を示していなければならない。
 - ⑥HFアースコードが手術台に接続されており、手術室内の目的の場所にあることを確認する。
 - ⑦手術台を一番高い位置まで上げ、可動部分が止まるまで確認する。

2. 使用前・使用後の点検

以下の事項を点検すること。

- ①全てのパッドを点検し、破損が無いこと。尚、破損したパッドはすぐに交換すること。[手術台パッドの不良により、医療従事者や患者が負傷又は感染する危険性があるため]
- ②背板、腰板他、接続するアクセサリー(別売品)を点検し、破損が無いこと。
- ③各可動部、床を点検し、油漏れが無いこと。
- ④AC電源コードが破損していないこと。
- ⑤HFアースコードが破損していないこと。
- ⑥ハンドコントロール及びカールコードが破損していないこと。また、ハンドコントロールの全てのスイッチが正常に機能すること。
- ⑦フットコントロール及びカールコードが破損していないこと。また、フットコントロールの全てのスイッチが正常に機能すること。
- ⑧左右のサイドレールを持って上下、左右に揺すった際、ガタつきが無いこと。

3. 故障時のお願い

異常のあるもの及びその疑いのあるものは使用を中止し、本文書に記載の<問い合わせ先>へ連絡するか、新しい物と取り替えること。

4. 内蔵バッテリーの交換について

次の症状が確認された場合は耐用期間前であっても交換すること。[容量がゼロになった場合、電子回路のメモリーがリセットされ、正常に動作しなくなることがあるため]

- ①消耗が著しく早い。
- ②8時間以上充電しても十分に充電されない。

5. 洗浄・消毒方法

- ①本品を使用する前に必ず洗浄・消毒すること。又、汚れは出来るだけ速やかに除去すること。
- ②洗浄前に必ず主電源を電源装置から外すこと。
- ③洗浄および消毒の際は、以下の保護具を着用すること。
保護手袋/保護ゴーグル/マスク
- ④機械洗浄、高圧洗浄、スクラブ剤(クレンザー等の磨き粉)、オートクレーブ滅菌、洗浄用溶剤または皮膚消毒剤による清拭には対応していない。
- ⑤不適切な消毒剤や洗浄剤を使用すると、パッドの破損により患者被害を引き起こしたり、パッドが通電したりする恐れがあるため、絶対に使用しないこと。
- ⑥アルコールやアルコール含有化合物を主成分とする手指消毒剤、塩化物やその他の塩素を分解する成分を含む消毒剤は使用不可。[パッドを破壊し、手術台の表面に物質的な損傷をもたらすため]
- ⑦洗浄用溶剤及び消毒剤の製造元が提供する用途、混合比に関する情報に留意すること。

⑧次の手順で手術台のパッドを洗浄する。

- a. 手術台からパッド、アクセサリー及び必要に応じて頭板／脚板を取り外す。
- b. 柔らかいブラシとぬるま湯の石鹼水、又は洗浄活性成分として界面活性剤とリン酸塩を含む弱アルカリ性の医療用洗剤でパッドを洗浄する。尚、洗浄の際には極少量の洗浄液を使用し、余分な液体は乾いた布で直に取り除くこと。
- c. 清浄な水で洗浄剤を取り除き、機器を乾燥させる。
- d. 市販の洗浄剤では落ちない汚れの場合、純度の高い石油系溶剤により次の手順で部分洗浄することが可能である。但し、石油系溶剤の使用は、火事や有毒蒸気の吸入による傷害のリスクをもたらすため十分に注意すること。
 1. 高純度の石油系溶剤で部分汚れを部分的に洗浄する。
 2. 洗浄した部位を清浄な水で洗い、乾燥させる。

⑨消毒剤は次の有効成分を組み合わせた表面消毒剤に限り使用が可能。〔手術台の表面に物質的な損傷をもたらさないため〕

- ・アルデヒド
- ・第四級化合物 又は グアニジン誘導体

⑩次の条件で手術台の消毒を行うこと。

- a. 消毒剤製造元が提供する情報に従い、消毒剤を使用すること。
- b. 消毒剤使用後は、残渣を清浄な水で洗い流し、乾燥させる。

⑪消毒作業の際には、国内規制を遵守すること。

<業者による保守・点検>

定期点検を希望の場合は、本文書に記載の<問い合わせ先>へ連絡願います。

【製造販売者及び製造業者の氏名又は名称等】

<製造販売業者>

欧和通商株式会社：TEL 03 (5803) 7172

<製造業者>

日本語名：シーラー・メディカル社（スイス）

英 名：S c h a e r e r M e d i c a l A G (Switzerland)

<問い合わせ先>

欧和通商株式会社 札幌営業所：TEL 011 (708) 7725

東京営業所：TEL 03 (3813) 8201

大阪営業所：TEL 06 (6304) 9305

福岡営業所：TEL 092 (526) 3618

住所等につきましては下記ホームページにてご確認願います。

ホームページアドレス <http://www.ohwa-tsusho.com>